

# 平成27年度第3四半期運用状況

## 年金積立金管理運用独立行政法人

年金積立金は長期的な運用を行うものであり、その運用状況も長期的に判断することが必要ですが、国民の皆様に対して適時適切な情報提供を行う観点から、作成・公表が義務付けられている事業年度ごとの業務概況書のほか、四半期ごとに運用状況の公表を行うものです。

収益は、各期末時点での時価に基づく評価であるため、評価損益を含んでおり、市場の動向によって変動するものであることに留意が必要です。

	平成27年度第3四半期	市場運用開始以降 (平成13年度～平成27年度第3四半期)
収益率	3.56%(期間収益率)	2.99%(年率)
収益額	4兆7,302億円(期間収益額)	50兆2,229億円(累積収益額)
運用資産額	139兆8,249億円(平成27年度第3四半期末現在)	



(注1) 当法人が管理・運用している資産は、市場運用を行っている資産（以下「市場運用分」という。）と満期保有としている財投債になります。市場運用分は時価評価、財投債は償却原価法による評価により管理・運用を行っています。

(注2) 収益率は、市場運用分と財投債の投下元本平均残高等で加重平均により算出しています。

(注3) 期間収益率及び期間収益額は、前期末から比較したものです。（以下のページにおいても同様です。）

(注4) 市場運用開始以降の収益率（年率）は、前年度までの各年度の収益率及び今年度の今四半期までの収益率を用いて幾何平均により算出しています。なお、当法人設立（平成18年度）からの収益率（年率）は、3.12%です。

(注5) 累積収益額は、前年度までの各年度の収益額に、今年度の今四半期までの収益額を加えたものです。なお、当法人設立（平成18年度）からの累積収益額は、36兆7,972億円です。

# 1. 平成27年度第3四半期運用環境

## 【各市場の動き（10月～12月）】

国内債券：10年国債利回りは、日銀による金融緩和期待が高まる一方で、高値警戒感もくすぶったことから、0.3%台での推移が続きましたが、12月に日銀が金融緩和の補完的措置を決定すると、0.2%台まで低下（債券価格は上昇）しました。通期では利回りが0.35%から0.28%へ下落しました（債券価格は上昇）。

国内株式：10月および11月は、米国の利上げ見通しの後退、欧州中央銀行（ECB）の追加金融緩和示唆、中国の追加金融緩和決定などを受けて、国内株式は大幅に上昇しました。12月に入ると、ECBの追加金融緩和に対する失望感に加え、米国の利上げや原油価格の下落から新興国景気に対する懸念が高まり、国内株式も小幅下落しましたが、通期では9.83%上昇しました。

外国債券：外国債券利回りは、通期では小幅上昇し（債券価格は低下）、現地通貨ベースの収益率はややマイナスとなりました。米国10年国債利回りは、12月に米連邦準備理事会（FRB）が利上げを実施したことから、2.3%近辺に上昇しました。ドイツ10年国債利回りは、欧州中央銀行（ECB）の追加金融緩和に対する失望感で一時上昇しましたが、原油安から上昇幅は抑制されました。円ベースの収益率を見ると、対ユーロでの円高によりマイナス幅が拡大しました。

外国株式：10月は、米国の利上げ見通しの後退、欧州中央銀行（ECB）の追加金融緩和示唆、中国の追加金融緩和決定などから、上昇しました。その後、米国株は米連邦準備理事会（FRB）の利上げ観測から上値が重くなる一方、欧州株は欧州中央銀行（ECB）の追加緩和観測に伴い一段と上昇しました。後、欧州中央銀行（ECB）の追加緩和策への失望や原油安から下落しました。円ベースの収益率を見ると、通期では5.28%の上昇となりました。

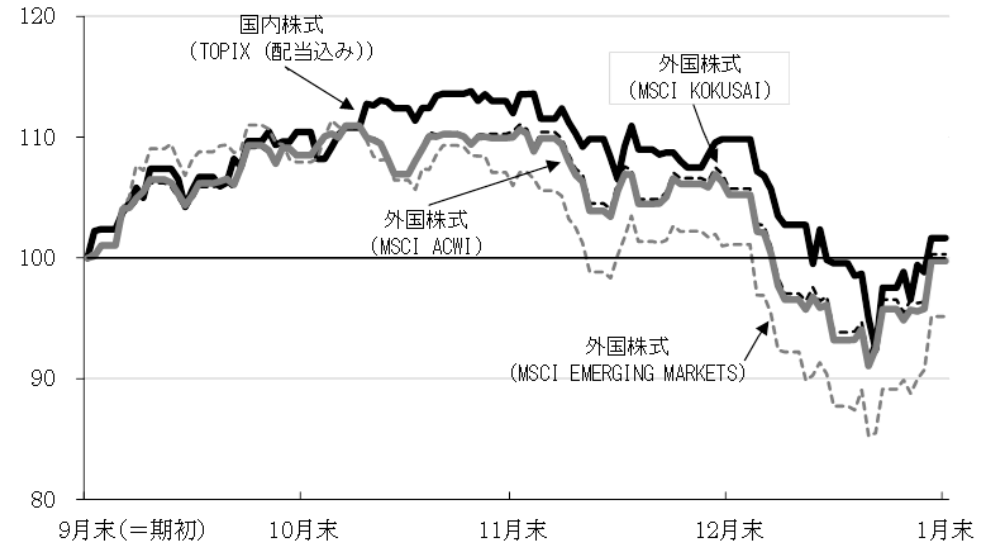
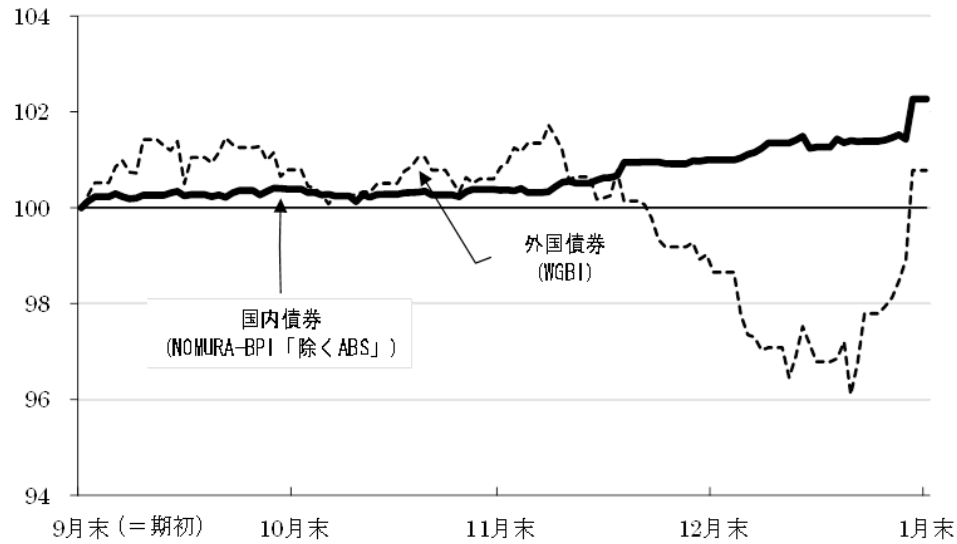
### ○参考指標

		H27年3月末	H27年9月末	H27年10月末	H27年11月末	H27年12月末	H28年1月末
国内債券	10年国債利回り (%)	0.40	0.35	0.31	0.31	0.28	0.11
	国内株式	TOPIX配当なし (ポイント)	1543.11	1411.16	1558.20	1580.25	1547.30
	日経225 (円)	19206.99	17388.15	19083.10	19747.47	19033.71	17518.30
外国債券	米国10年国債利回り (%)	1.93	2.04	2.15	2.21	2.27	1.92
	ドイツ10年国債利回り (%)	0.18	0.59	0.52	0.47	0.63	0.34
外国株式	NYダウ (ドル)	17776.12	16284.70	17663.54	17719.92	17425.03	16466.30
	ドイツDAX (ポイント)	11966.17	9660.44	10850.14	11382.23	10743.01	9798.11
	上海総合指数 (ポイント)	3747.90	3052.78	3382.56	3445.40	3539.18	2737.60
為替	ドル/円 (円)	119.93	119.77	120.68	123.28	120.30	121.07
	ユーロ/円 (円)	128.80	133.69	133.30	130.20	130.68	131.00

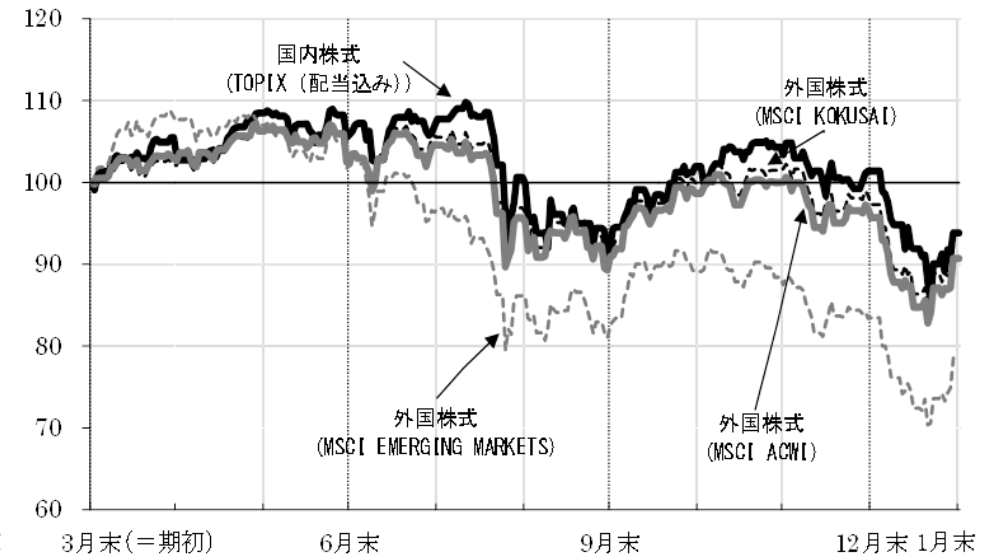
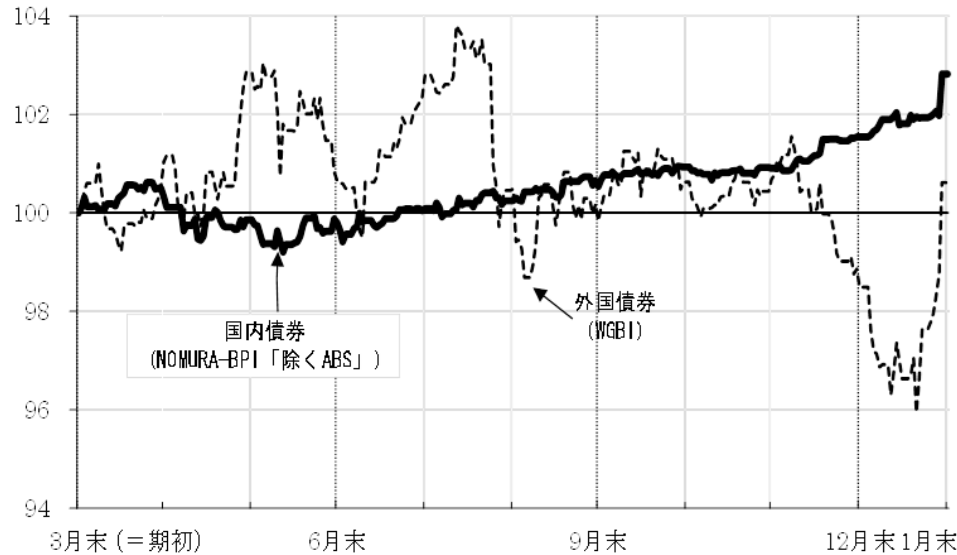
### ○ベンチマーク収益率

	平成27年10月～12月	平成27年4月～12月	平成27年4月～平成28年1月
国内債券			
複合ベンチマーク収益率	0.79%	1.29%	2.33%
NOMURA-BPI「除くABS」	1.00%	1.54%	2.82%
国内株式			
TOPIX配当込み	9.83%	1.39%	-6.16%
外国債券			
シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）	-1.35%	-1.51%	0.61%
（参考）シティ世界国債インデックス（現地通貨ベース）	-0.32%	-1.55%	0.56%
外国株式			
複合ベンチマーク収益率（円ベース）	5.28%	-4.17%	-9.16%
MSCI ACWI（除く日本、円ベース）	5.24%	-4.28%	-9.27%
MSCI KOKUSA I（円ベース）	5.73%	-2.69%	-7.68%
MSCI EMERGING MARKETS（円ベース）	1.10%	-16.52%	-21.44%
（参考）複合ベンチマーク収益率（現地通貨ベース）	5.57%	-3.29%	-8.29%

市場インデックスの推移（平成27年度 第3四半期）

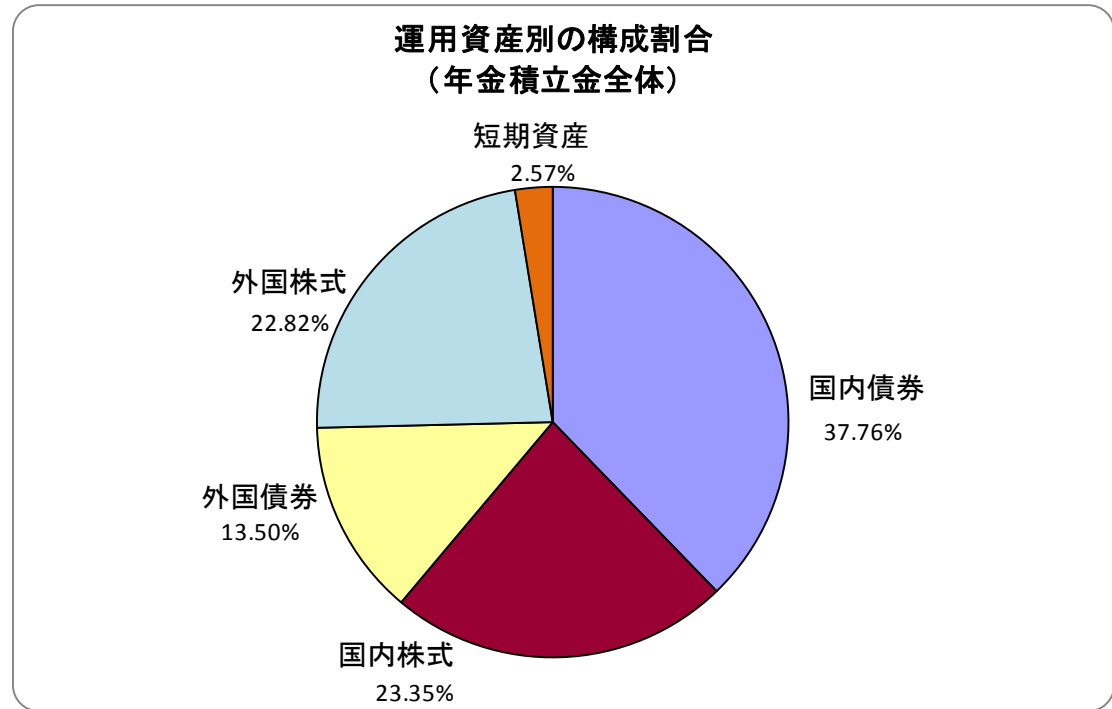


市場インデックスの推移（平成27年度 第1～3四半期）



## 2. 運用資産別の構成割合（年金積立金全体）

	第3四半期末 (平成27年12月末) (年金積立金全体)
	構成割合
国内債券	37.76%
国内株式	23.35%
外国債券	13.50%
外国株式	22.82%
短期資産	2.57%
合計	100.00%



(注1) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(注2) 年金積立金全体とは、年金特別会計で管理する積立金を含みます。なお、基本ポートフォリオは、年金特別会計で管理する積立金を含めた年金積立金全体に対し、国内債券 35% (±10%)、国内株式 25% (±9%)、外国債券 15% (±4%)、外国株式 25% (±8%) です。

(注3) オルタナティブ資産の年金積立金全体に占める割合は 0.04% (基本ポートフォリオでは上限 5%) です。

(注4) 管理積立金 (厚生年金保険法第 79 条の 6 第 1 項に規定する管理積立金をいう。以下「厚生年金分」という。) に係る運用資産別の構成割合は、上記の年金積立金全体に係る構成割合と同じ比率です。

## 平成 27 年度第 3 四半期運用状況

	平成 26 年度					平成 27 年度				
	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年度	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年度
収益率 (%)	1.77	2.87	5.16	2.14	12.27	1.92	-5.59	<b>3.56</b>	-	<b>-0.37</b>
収益額 (億円)	22,222	36,223	66,233	28,245	152,922	26,489	-78,899	<b>47,302</b> (44,265)	-	<b>-5,108</b>
運用資産額 (億円)	1,272,627	1,308,846	1,370,358	1,374,769	1,374,769	1,411,209	1,351,087	<b>1,398,249</b> (1,308,478)	-	<b>1,398,249</b>

## 《参考》

## (市場運用分)

	平成 26 年度	平成 27 年度		
		第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期
修正総合収益率 (%)	12.88	1.98	-5.79	3.66
時間加重収益率	12.93	1.99	-5.69	3.60
総合収益額 (億円)	151,824	26,280	-79,090	47,122 (44,097)
運用資産額 (億円)	1,324,648	1,366,803	1,310,173	1,359,739 (1,272,440)

## (財投債)

	平成 26 年度	平成 27 年度		
		第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期
収益率 (%)	1.63	0.42	0.43	0.45
収益額 (億円)	1,098	208	191	180 (168)
運用資産額 (億円)	50,122	44,405	40,914	38,510 (36,037)

(注 1) 市場運用分は時価による評価、財投債は償却原価法による評価に未収収益を含めたものにより算出しています。

(注 2) 収益率及び収益額は、運用手数料等控除前のものです。また、各期間の収益率は期間率、平成 26 年度は年率です。

(注 3) カッコ内は厚生年金分の値です。寄託金の元本に応じて按分しています。なお、収益率は按分後も同じ値なので特記していません。

## 収益率の状況

### 《運用資産全体》

	平成26年度	平成27年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
収益率 (%)	12.27	1.92	-5.59	3.56	-	-0.37

### 《参考》

#### (市場運用分)

	平成26年度	平成27年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
修正総合収益率 (%)	12.88	1.98	-5.79	3.66	-	-0.42

	平成26年度	平成27年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
時間加重収益率 (%)	12.93	1.99	-5.69	3.60	-	-0.35
国内債券	2.76	-0.10	0.60	0.75	-	1.25
国内株式	30.48	5.89	-12.78	9.92	-	1.52
外国債券	12.70	0.65	-1.26	-1.10	-	-1.71
外国株式	22.27	2.38	-10.97	5.28	-	-4.04

#### (財投債)

	平成26年度	平成27年度				
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
収益率 (%)	1.63	0.42	0.43	0.45	-	1.30

(注1) 収益率は、運用手数料等控除前のものです。また、平成27年度の各期間及び年度は期間率、平成26年度は年率です。

(注2) 厚生年金分の収益率は、按分後も同じ値なので特記していません。

## 収益額の状況

	平成26年度	平成27年度				年度
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
収益額（億円）	152,922	26,489	-78,899	47,302 (44,265)	-	-5,108

### 《参考》

#### （市場運用分）

	平成26年度	平成27年度				年度
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
総合収益額（億円）	151,824	26,280	-79,090	47,122 (44,097)	-	-5,687
国内債券	15,957	-505	3,022	3,785 (3,542)	-	6,302
国内株式	69,105	18,657	-43,154	29,660 (27,756)	-	5,163
外国債券	18,884	1,139	-2,408	-2,179 (-2,039)	-	-3,447
外国株式	47,863	6,987	-36,552	15,854 (14,836)	-	-13,711
短期資産	15	1	2	2 (2)	-	6

#### （財投債）

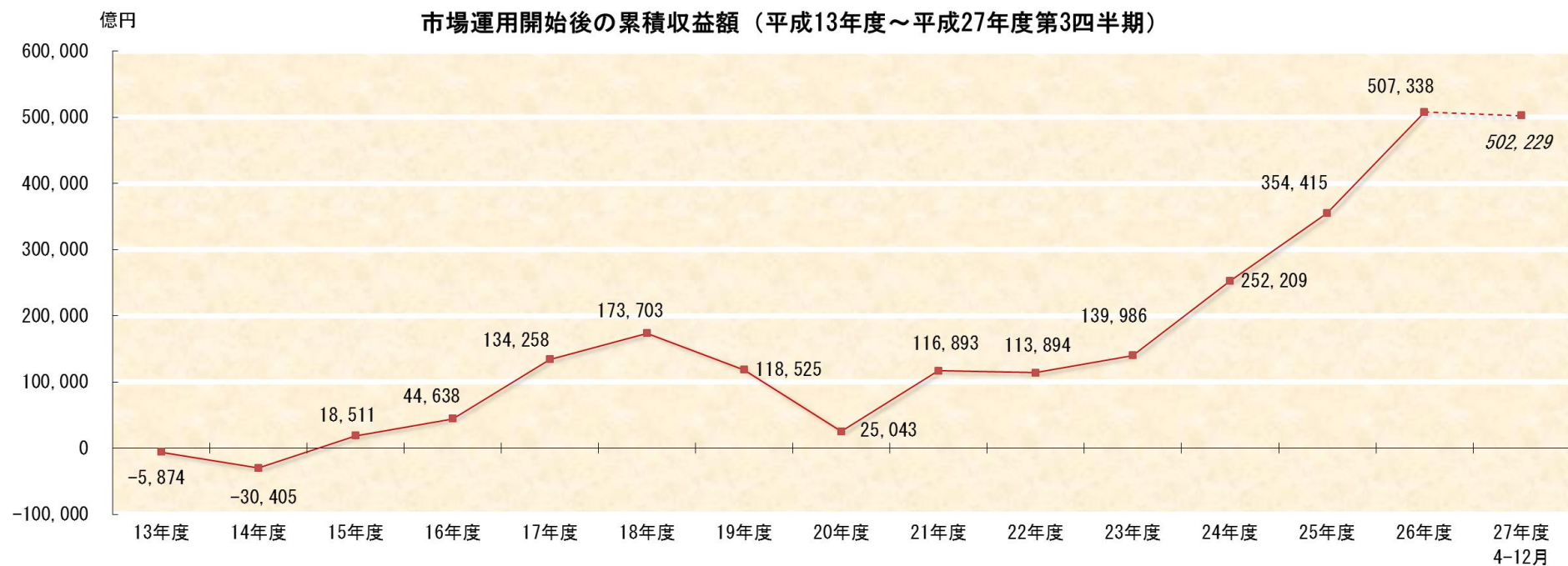
	平成26年度	平成27年度				年度
		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
収益額（億円）	1,098	208	191	180 (168)	-	579

（注1）上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

（注2）収益額は、運用手数料等控除前のものです。

（注3）カッコ内は厚生年金分の値です。寄託金の元本に応じて按分しています。

## 運用実績推移



	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度 4-12月	独法設立後 (18～27年度第3四半期)	市場運用開始後 (13～27年度第3四半期)
収益額 (億円)	-5,874	-24,530	48,916	26,127	89,619	39,445	-55,178	-93,481	91,850	-2,999	26,092	112,222	102,207	152,922	-5,108	367,972	502,229
収益率	-1.80%	-5.36%	8.40%	3.39%	9.88%	3.70%	-4.59%	-7.57%	7.91%	-0.25%	2.32%	10.23%	8.64%	12.27%	-0.37%	3.12%	2.99%

(注1) 収益額及び収益率は、運用手数料等控除前です。

(注2) 四捨五入のため、各数値の合算は合計と必ずしも一致しません。



## 資金運用に関する専門用語の解説

### ○ 時間加重収益率

時間加重収益率は、時価に基づく運用収益に基づき、運用機関が自ら決めることができない運用元本の流出入の影響を排除して求めた収益率であり、その運用実績とベンチマーク収益率（市場平均収益率）との比較により、運用能力を評価することが可能となります。

管理運用法人では、時間加重収益率の市場平均対比での超過収益率を測定し、運用行動の自己評価と、運用受託機関の定量評価に使用しています。

（計算式）

時間加重収益率は、次の式により日次の収益率から月次の収益率を算出し、n期間の収益率を算出したものです。

- ①日次の収益率 =  $\left\{ \frac{\text{当日時価総額}}{\text{前日時価総額} + (\text{当日の資金追加額} - \text{当日の資金回収額})} \right\} - 1$
- ②月次の収益率 =  $(1 + r_1)(1 + r_2) \cdots (1 + r_n) - 1$  r = 日次収益率
- ③n期間の収益率 =  $(1 + R_1)(1 + R_2) \cdots (1 + R_n) - 1$  R = 月次収益率

### ○ 修正総合収益率

運用成果を測定する尺度の1つです。

総合収益率では、収益に時価の概念を導入していますが、これに加え、投下元本に時価の概念を導入して算定した収益率です。算出が比較的容易なことから、運用の効率性を表す時価ベースの資産価値の変化を把握する指標として用いられます。

（計算式）

$$\begin{aligned} \text{修正総合収益率} = & \left\{ \begin{array}{l} \text{売買損益} + \text{利息} \cdot \text{配当金収入} + \text{未収収益増減} \left( \text{当期末未収収益} - \text{前期末未収収益} \right) \\ + \text{評価損益増減} \left( \text{当期末評価損益} - \text{前期末評価損益} \right) \end{array} \right\} / \left( \text{投下元本平均残高} \right) \end{aligned}$$

※ ⇒ 「投下元本平均残高」参照

### ○ 償却原価法

債券を額面金額よりも低い金額又は高い金額で取得した場合、差額が発生しますが、これらの差額を償還期までに毎期、一定の方法で収益又は費用に加減する評価方法です。

### ○ 総合収益額

総合収益額は、実現収益額に加え資産の時価評価による評価損益を加味することにより、時価に基づく収益把握を行ったものです。

（計算式）

$$\begin{aligned} \text{総合収益額} = & \text{売買損益} + \text{利息} \cdot \text{配当金収入} + \text{未収収益増減} \left( \text{当期末未収収益} - \text{前期末未収収益} \right) \\ & + \text{評価損益増減} \left( \text{当期末評価損益} - \text{前期末評価損益} \right) \end{aligned}$$

## ○ デュレーション

債券運用において、利子及び元本を回収できるまでの期間を現在価値で加重平均したもので、将来受け取る予定のキャッシュフロー（満期までのそれぞれの期間においては利子、最終年は利子＋元本）を最終利回りで割引いた現在価値に、実際に受け取ることができるまでの期間（経過年数）を乗じたものを、それぞれの期間において発生する現在価値の合計で割ります。これは債券投資の平均回収期間を表します。また、デュレーションは金利変動に対する債券価格の変化率を表す指標としても用いられます。これは修正デュレーションと呼ばれるもので、デュレーションを（1＋最終利回り）で除して求めることができます。例えば、修正デュレーションが1の場合、金利が1%上昇すると価格は概ね1%下落することとなります。修正デュレーションが大きいということは、金利リスクが大きいことを示します。

なお、MBS、ABSなどについては実効デュレーションを用います。実効デュレーションとは、期限前償還などのオプション性の影響を調整したものです。

例えば、残存期間3年、利子3%（年1回）、最終利回り4%の債券のデュレーションと修正デュレーションは次のように求めることができます。

経過年数	キャッシュフロー	現在価値	デュレーション	修正デュレーション
1年	3円（利子）	2.88円 ( $3 \div (1 + 0.04)$ )	0.03年 ( $2.88 \div 97.22$ )	2.91 ÷ ( $1 + 0.04$ )
2年	3円（利子）	2.77円 ( $3 \div (1 + 0.04)^2$ )	0.057年 ( $2 \times 2.77 \div 97.22$ )	
3年	103円（利子＋元本）	91.57円 ( $103 \div (1 + 0.04)^3$ )	2.83年 ( $3 \times 91.57 \div 97.22$ )	
合計	109円	97.22円	2.91年	2.80

## ○ 投下元本平均残高

期初の運用資産時価<sup>※</sup>に期中に発生した資金追加・回収（＝キャッシュフロー）の加重平均を加えたものです。総合収益額を発生させた元手がいくらであったかを表します。

※ 管理運用法人では、市場運用資産については、時価主義、発生主義の会計処理を行います。従って、年度初元本には前年度末評価損益と前年度末未収収益を含み、年度初元本は年度初運用資産時価と一致します。

（計算式）

投下元本平均残高＝期初の運用資産時価＋キャッシュフローの加重平均

キャッシュフローの加重平均＝ $\sum_i (i \text{ 番目のキャッシュフロー} \times i \text{ 番目のキャッシュフロー発生時から期末までの日数} / \text{期中の合計日数})$

## ○ ベンチマーク

運用成果を評価する際に、相对比较の対象となる基準指標のことをいい、市場の動きを代表する指数を使用しています。管理運用法人で採用している各運用資産のベンチマークは以下のとおりです。

- 国内債券 NOMURA-BPI「除くABS」、NOMURA-BPI国債及びNOMURA-BPI/GPIF Customizedの複合インデックス（それぞれの運用金額による構成比で加重平均したもの）
- 国内株式 TOPIX（配当込み）
- 外国債券 シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース、WGBI）
- 外国株式 MSCI KOKUSAI（円ベース、配当込み、管理運用法人の配当課税要因考慮後）、MSCI EMERGING MARKETS（円ベース、配当込み、税引き後）及びMSCI ACWI（除く日本、円ベース、配当込み、管理運用法人の配当課税要因考慮後）の複合インデックス（それぞれの運用金額による構成比で加重平均したもの）

### \* NOMURA-BPI「除くABS」

野村証券金融市場調査部が作成・発表している国内債券市場のベンチマークです。

平成20年4月から、代表的なベンチマークであるNOMURA-BPI総合の中に新たに資産担保証券（ABS）が組み込まれましたが、NOMURA-BPI「除くABS」は、同ベンチマークからABSを除いたベンチマークです。

### \* NOMURA-BPI国債

野村証券金融市場調査部が作成・発表している国債のベンチマークです。

### \* NOMURA-BPI/GPIF Customized

管理運用法人がキャッシュアウト等対応ファンドに移管し、満期まで保有することとした公募利付債について、野村証券金融市場調査部が投資収益率を指数化したベンチマークです。

### \* TOPIX（配当込み）

東京証券取引所が作成・発表している国内株式の代表的なベンチマークです。東証第一部の基準時の時価総額を100として、その後の時価総額を指数化したものです。

- 
- \* **シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース、WGBI）**  
シティグループ・グローバル・マーケッツ・インクが作成・発表している世界国債のベンチマークです。時価総額につき一定基準を満たす国の国債について、投資収益率を指数化したものであり、国際債券投資の代表的なベンチマークです。
  - \* **MSCI KOKUSAI（円ベース、配当込み、管理運用法人の配当課税要因考慮後）**  
MSCI Incが作成する日本を除く先進国で構成された株式のベンチマークです。
  - \* **MSCI EMERGING MARKETS（円ベース、配当込み、税引き後）**  
MSCI Incが作成する新興国で構成された株式のベンチマークです。
  - \* **MSCI ACWI（除く日本、円ベース、配当込み、管理運用法人の配当課税要因考慮後）**  
MSCI Incが作成する日本を除く先進国及び新興国で構成された株式のベンチマークです。

#### ○ **ベンチマーク収益率**

ベンチマークの騰落率。いわゆる市場平均収益率のことです。

運用収益率の絶対値の高低による評価は、投資環境の違いを反映せず、運用期間が異なる場合に横並びの比較が不可能です。しかし、投資環境を反映する基準指標の騰落率に対してどの程度収益率が上回ったか（超過収益率）を算出することにより、運用期間の異なるものの横並び比較が可能となります。

ただし、ベンチマーク収益率は、市場平均収益率を示す理論値であるため、取引に係る売買手数料等の取引コストは考慮されていません。